

令和6年度学校評価報告書

令和7年3月28日

北海道教育委員会教育長 様

北海道登別青嶺高等学校長 坪 井 克 彦 印

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標（スクール・ミッション）

(1) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
(2) 地域唯一の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
(3) 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじ的確に判断し、主体的に行動できる生徒の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・基礎学力の定着に課題がある。 ・教務だよりを発行し、家庭学習の定着を啓発した。また週末課題の実施など、学習習慣の定着を図る取組は実践しているが、自己評価は低い結果となった。 ・全年次で1人1台端末（ICT）が有効活用されている。	・単位制の良いところが定着してきている。関係各所の協力により、じもと学が効果的に実施されている。更なる充実に期待します。 ・少子化により進む中、生徒の個別ニーズに対応（考慮）した授業設計が大切になると思います。成績向上だけではなく学ぶ楽しさを伝える仕組みに力を入れていただきたい。ICTを活用する先進的な教育の導入も一つの方法かと思っています。
改善方策	・基礎基本を大切にする指導については先生方に浸透しているので次年度も継続する。 ・朝読書や朝学習の取組の継続により、学習習慣の定着を図る。 ・本校の特色である「じもと学Ⅰ・Ⅱ」を更に充実した内容とし、生徒の個別ニーズに対応した教育課程を編成する。	
生徒指導	・規範意識についての指導が生徒に浸透しており、落ち着いた学校である。スマホの自己管理は、大きなトラブルはないものの、継続的な指導が必要である。生徒は学校行事やボランティア活動に積極的に参加し、生き生きと活動している。 ・いじめ対策委員会を中心として、組織的な対応を行っている。 ・生徒数の割に部活動の数が多く、部活動の精選に課題がある。	・規範意識が涵養される生徒指導やスマートフォン等の自己管理や使用方法の徹底については、粘り強く組織的に取り組むべきであり、情報モラル教育については保護者の理解も深めていくべきと感じる。 ・学校行事やボランティア活動など積極的な参加が見られる。部活動の活性化により、より生き生きとした生徒の姿が見られることに期待したい。
改善方策	部活動の精選について、現状を十分に把握し、改善方策について検討する。	
進路指導	・生徒との進路にかかる個別相談の充実について、自己評価も高く、継続して実施していく。 ・上位層の学力伸長にかかる取組で自己評価が低くなっていることから、次年度以降、上位層の学力伸長に更に具体策を講じて取り組む必要がある。	・単位制の効果が現れた進路決定状況である。系統的かつ細かい進路指導ができています。 ・キャリア教育の推進と進路情報提供については、達成状況は高いものの生徒・保護者アンケート結果から十分とはいえないので、今後も継続してほしい。上位層の学力伸長の取組は不十分と教員が自覚しているようなので、何か具体的な策を講じてほしい。
改善方策	・上位層の学力伸長のための取組について、講習や週末課題の添削など、個別最適な学習指導を一層推進する。	
信頼される学校づくり	・PTAだより、年次通信、HP、配信メール等を活用して発信を強化している。 ・授業公開週間や学習成果発表会では、「じもと学」で関わりの深い登別市や、地域の小学校・中学校からも来校頂いた。	・じもと学が登別市に根付いていると感じています。 ・登別市唯一の高等学校として、中学校との連携や中学校保護者との連携をより一層活発に実施してほしいと思います。
改善方策	・地域との距離を近づけ、本校を知ってもらうとともに、「じもと学Ⅰ・Ⅱ」や「総合的な探究の時間」を通して地域とともに生徒を育てる学校づくりを推進する。	
公表方法	学校運営協議会委員への説明、学校ホームページへの掲載	

3 添付資料

- (1) 令和6年度 学校関係者評価
- (2) 令和6年度 自己評価書